

福岡県神道青年会
会報誌

ぬぼこ

Nuboko

No.
126

令和8年
3月31日(火)
発行

福岡県神道青年会
広報委員会

会長挨拶

福岡県神道青年会会長

久富真道



謹んで聖寿の万歳と皇室国家の弥栄をお慶び申し上げます。

神宮に於かれましては、第六十三回神宮式年遷宮の諸祭、諸行事が始まりました。御神木に関する祭祀が次々に行われ、令和八年には御用材を古式のままに両宮へ曳き入れる御木曳行事が行われます。青年神職として、積極的に御遷宮に関わっていただくべきです。

令和七年度は、各奉務神社の様々な問題解決に繋がる研修会と位置づけ、「話し合いのしかた」を学ぶ研修会を実施しました。多様な意見を引き出し、建設的な議論を促し、結論を導くための技術を学びました。

能登半島地震発災後、現地での復興支援活動を実施しました。甚大な被害を受けた社殿をはじめ、倒壊した鳥居や狛犬等を目の当たりにしました。その状況を今でも忘れることは出来ません。災害が

自身に降りかかったことを想定し、必要と思われる研修会の開催を目指します。

大東亜戦争終戦八十周年にあたりSNSを活用し県内各所に点在する戦歿者慰霊碑等の発信に力を入れました。また、国のため、家族のために戦陣に散った福岡県の戦歿者の皆様に感謝と慰霊の誠を捧げるべく、福岡県戦歿者慰霊祭を斎行致しました。神職のみならず、日々祈りを捧げる者同士、宗教、宗派の垣根を越えて共に御奉仕できたことは大変意義深いものがあると考えております。また、靖国神社を参拝し、国防のために尊い生命を捧げられた二百四十六万六千余柱、全ての御霊安らかならんことをお祈り申し上げます。

『ぬぼこ』の発刊に関して、ホームページへの掲載をはじめ、会員へ配布分をデータ化しました。デジタル化が進む中、大きな一歩を踏み出すことが出来たと考えております。郵送料の値上げや冊子作成に関わる費用が高騰する中でも、百二十六号を数え伝統ある『ぬぼこ』を継続的に発刊できる体制を整えて参ります。

先輩諸賢には、格別な御支援、御協力を賜りましたこと深く感謝申し上げます。今後も変わらぬ御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶と致します。

福岡県戦歿者慰霊祭

日時：令和七年十二月二十八日(金)
場所：福岡陸軍墓地

福岡県神道青年会の事業として、福岡陸軍墓地にて執り行われた大東亜戦争終戦八十周年の戦歿者慰霊祭に、磐梨委員長が務める事業委員会の委員として齋員奉仕させていただきました。当日は福岡縣護国神社の中島禰宜様を御来賓としてお迎えし、厳かな雰囲気の中で御霊への感謝と追悼の誠を捧げることができました。また、和光会青年部や高野山真言宗青年教師会、天理教青年会の皆様と宗教の垣根を越えて奉仕できたことは、平和を願う心が通じ合うことを実感する機会となりました。戦後生まれの人々が多くなる中で慰霊と歴史を継承する責任を強く感じ、御英霊の御奉公に思いを致しつつ、今後の奉仕にも真摯に取り組んで参りたいと思っております。

(宇原神社 権禰宜 廣瀬凌平)



第五十一回九州地区協議会研修会 及び親善スポーツ大会

◆日時：令和七年八月二十八日(木)、二十九日(金)
◆場所：大分県

先の大戦を乗り越え、現在もなお戦争を経験された方々が多く御存命です。これまでは、そうした方々から直接お話を伺うことができました。今回の研修会、第一講での日本遺族会会長水落先生のお話は、今後は経験することができなくなるやもしれない貴重な経験になりました。これからは記録や当時の話を聞いた方の伝聞が歴史を振り返る材料になつてきます。その中で、久富会長のお話でもありました「占領政策からの脱却」が我々日本人にとり、とても大切になつていくのではないかと考えています。戦争の歴史をすべて悲観的、否定的に捉えるのではなく、先人たちが尊い命を犠牲に現代、未来のために日本という国をお守りいただいた心を我々は受け継ぐ責任があると感じます。水落先生より日本遺族会のこれまでの歩みや想いを今回伺いし、我々日本人として、青年神職として日本を誇りある国にすべく神明奉仕はもちろんのこと、第二講で学んだ今後の少子高齢化や過疎などの現代社会問題を解決できる存在になりたいと考えます。

翌日は第四十七回九州各県神道青年親善スポーツ大会(ボウリング大会)が行われ、各県若手神職たちと熱き戦いが繰り広げられ、佐賀県が見事優勝を飾りました。普段は別の神社にて御奉仕をする各地の若手神職の皆様とスポーツを通してたくさん交流を深めることができました。

(太宰府天満宮 権禰宜 別所稔仁)



第一回教養研修会 「話し合いのしかた」

◆日時：令和七年九月十日(水)
◆場所：福岡県神社庁

株式会社アキラカ代表取締役伊賀聡先生をお招きし、会議で多様な意見を引き出し建設的な議論を進める「ファシリテーション技術」について御講演いただきました。

ファシリテーションとは、参加者のコミュニケーションを円滑にし、議論を導く手法です。参加者それぞれが自分の言葉で意見を述べ合うことで、一人ひとりが主体的に関わり、より良い方策を生み出せるという大切さを学びました。

今回の学びを活かし、神社運営や社務における話し合いが、より創造的で意義あるものとなるよう努めて参ります。

(紅葉八幡宮 権禰宜 熊谷峻太)



英霊顕彰事業提灯付け作業

◆日時…令和七年八月十日(日)
◆場所…福岡縣護国神社

本年の作業奉仕は、始めに福岡縣護国神社にて正式参拝を執り行い、田村豊彦宮司様より英霊に対する深い敬意と、平和の尊さを語り継ぐ責任について御講話を賜りました。

当日は、神道青年会会員をはじめ、一般参加者の皆様も多数御参集いただき、総勢五十名を超える方々の御助勢を賜りました。あいにくの大雨により、当初予定していた屋外作業の実施が困難となったため、屋内にて提灯の絵付け作業を中心に取り組むこととなりました。

しかしながら、絵付け作業開始から約一時間後、次第に雨が弱まり、雨合羽を着用すれば作業可能な状況となりましたので、手分けして屋外での提灯取り付け作業と屋内での絵付け作業の両方を並行して進めることができました。結果として大変有意義な奉仕活動となりました事、これも英霊からのお導きであると嬉しく感じた次第です。

終戦八十周年を迎えた本年の英霊顕彰事業には、一般参加者を含め多くの皆様が集い、想いをひとつにして、英霊への感謝の誠と慰霊の誠を捧げながら奉仕できたことを深く実感しております。

今後とも、英霊への敬意と感謝の念を忘れることなく、その志を次世代へと確かに繋いで参りたいと思います。

(太宰府天満宮 権禰宜 山口敬也)



事業委員会 渉外委員会 靖國神社正式参拝

Yasukuni Jinja & Yushukan Museum

去る、令和七年九月二十九、三十日の二日間にて靖國神社正式参拝の事業が執り行われた。

今年は大東亜戦争終戦八十年の節目であることから、英霊に哀悼の誠を捧げるべく、十六名の青年会員と四名の一般参加者とともに向かった。

福岡空港から一時間半のフライトに揺られながら九州を後にした。東京へ到着後、見学も兼ねて乃木神社を参拝し、十四時三十分、靖國神社に到着した。

待合室にて村田権宮司様の御挨拶を賜り、手水で清め、修祓を終え、本殿へ昇殿した。静寂で緊張感に包まれる殿内は独特の雰囲気を感じさせていた。神々とは違う御祭神であるがゆえなのか、規律正しい英霊たちであるからなのか不思議な肌感だった。

正式参拝を終えた後に遊就館を拝観した。国のために尊い命を捧げられた英霊の御遺徳に触れて学びを得る「場所」とされている。日本の武の歴史や、特に大東亜戦争時に戦火に散った英霊の想いやリアルな心情に触れることができる。





館内は二階から一階へ進む経路になっており、二階は靖國神社や遊就館の歴史から始まり、西南戦争から大東亜戦争前までの内容が展示されている。階段を降りて一階のはじめからは大東亜戦争の戦歴や英霊に関する資料や遺品、遺影が並んでいた。

大東亜戦争で亡くなった方や御遺族の手紙などを拝読して思うのは、八十年前というのは長い月日のように思えるが、それほど遠い昔でもない。時代や物の変化は著しいが、人の心はそう変化はない。という風に感じた。当時の感性は現代の我々と同じであり、命を捧げなければならぬか、平和に過ごすことができるかは生まれた時代の違いだけだと察し、胸が苦しくなった。

命や身を捧げるしか選択肢がなかったあの時代を鑑みて、今生きる現代人として、血は繋がっているかいないかは関係なく、英霊に対して感謝や哀悼の意を捧げることは極めて大切なことではないだろうか。それを後世に伝えていかなければならないのが今を生きる人々であり、平和に生活ができている我々の使命だとも感じる。特に中執り持ちである我々は後世に伝えていく努力を担っていかなければならないのではないかと強く感じた。

（十日恵比須神社 権禰宜 太郎良高光）

北方領土 返還運動

北方領土 The Northern Territories

択捉島
Etorofu Island

国後島
Kunashiri Island

色丹島
Shikotan Island

歯舞群島
Habomai Islands

北方領土返還促進県民集会



北方領土島民二世である三遊亭金八先生の御講話を通じ、「故郷の意味について深く考える機会となりました。自らが住んでいた家や土地が他国のものとなり本土へ移住せざるを得なかつた経験談は、返還問題を身近なことから捉える契機となりました。正しい知識を身につけ、日々の活動に尽力して参ります。

(宮崎宮 権禰宜 佐野正邦)

第一部会

令和八年一月二十六日、天神パルク前において、北方領土返還促進街宣運動を行いました。ティッシュを配布しながら呼び掛けを行い、少しでも多くの方々に思いが伝わるよう取り組みました。活動の途中には、我々の趣旨に賛同し、お手伝いをしてくださる方もおられ、心温まる思いになったとともに、私自身も北方領土問題について改めて学ぶ貴重な機会となりました。本運動をきっかけに、北方領土問題への関心が、少しでも多くの方々へ広がっていくことを願っております。

(太宰府天満宮 出仕

佐々木純)

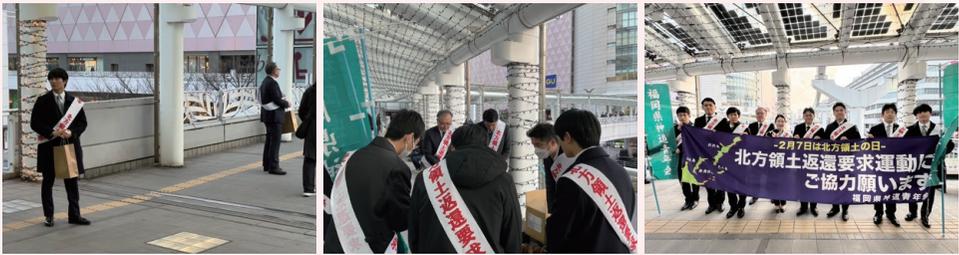


第二部会

令和八年二月六日、第二部会の地、小倉駅南口ペデストリアンデッキにて北方領土返還促進街頭活動が行われた。短い時間ながらも、道行く人に啓発物（ティッシュ）の配布をしていく中で、北方領土問題に関心を持つ方から幾度か話しかけられた。励ましの声等の肯定的な反応を確認することができ、幅広い層に北方領土問題が認識されていることを実感することができた。今後も活動を続けることで、さらに多くの人々の北方領土問題への関心が高まることを願う。

（戸上神社 権禰宜

是則明秀）



第三部会

令和八年一月二十二日、二十三日には北方領土返還促進運動を行った。一日目は十七時から西鉄久留米駅前でティッシュ配りを行い、付属のチラシを読む方や関心を持ち声を掛けてくださる方がいた。二日目は七時から十七時まで筑後一円の十八社を廻らせていただき、各社暖かく出迎えてくださり励みになった。街宣車で廻ることので広い地域に北方領土についての認知を高める事が出来ると感じた。街宣活動を続けていくことで国民の意識が上がる事を望む。

（日吉神社 権禰宜

田中絵梨香）



令和7年度

福岡県神道青年会 賛助会費納入者御芳名

※二口以上は太字

今年も多くの賛助会費を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。御芳名をここに掲載し、御報告とさせていただきます。

福岡支部

水鏡神社	宮司	小鳥居	良信
警固神社	宮司	前田	安文
福岡縣護国神社	宮司	田村	豊彦
福岡縣護国神社	禰宜	中島	之啓
福岡縣護国神社	権禰宜	岩間	宏富
光雲神社	宮司	町田	知音
志式神社	宮司	稲光	賢治
志賀海神社	宮司	阿曇	幸興
照天神社	宮司	筒井	憲昭
若八幡宮	宮司	高木	茂之
日吉神社	宮司	日吉	克義
住吉神社	宮司	横田	昌和
住吉神社	禰宜	桐田	篤史
住吉神社	権禰宜	本田	頼緩
住吉神社	権禰宜	吉田	純一郎
住吉神社	出仕	中島	一真
柳田神社	宮司	阿部	憲之介
十日恵比須神社	宮司	野上	清隆
筥崎宮	宮司	田村	邦明
八幡宮	宮司	佐伯	幹夫
香椎宮	宮司	足立	憲一
香椎宮	禰宜	上原	和憲
香椎宮	権禰宜	楠本	展将
香椎宮	権禰宜	崎山	庫助
香椎宮	権禰宜	木下	智武
香椎宮	権禰宜	江口	英大
香椎宮	権禰宜	内海	拓馬
部木八幡神社	宮司	平山	晶生
紅葉八幡宮	宮司	大谷	華代子
菊池神社	宮司		

熊野道祖神社

熊野道祖神社	宮司	飯田	祐一
住吉神社	宮司	花田	秀徳
高宮八幡宮	宮司	古賀	靖啓
飯盛神社	宮司	牛尾	秀司
八坂神社	宮司	岡本	国夫
粕屋支部			
宇美八幡宮	宮司	伊藤	佳和
老松神社	宮司	古屋	嘉徳
八幡宮	宮司	木梨	都子
宗像支部			
諏訪神社	宮司	高宮	秀文
金刀比羅神社	宮司	阿部	弘樹
宮地嶽神社	宮司	浄見	謙
宗像大社	宮司	葦津	敬之
宗像大社	権宮司	葦津	幹之
宗像大社	禰宜	神島	亘
宗像大社	禰宜	中原	裕生
宗像大社	権禰宜	菊池	宣行
宗像大社	権禰宜	長友	貞治
宗像大社	権禰宜	御床	直之
宗像大社	権禰宜	壹岐	貴寿
宗像大社	権禰宜	吉田	久賀
宗像大社	権禰宜	松林	拓
宗像大社	権禰宜	越智	洋
宗像大社	権禰宜	宗像	崇史
宗像大社	権禰宜	吉武	誠礼
宗像大社	権禰宜	日高	庸介
年毛神社	宮司	永島	淑子
波折神社	宮司	野上	雅貴
鞍手支部			
亀山神社	宮司	長元	祥泰

八幡宮

八幡宮	宮司	小方	良臣
嘉飯山支部			
白山神社	宮司	西田	盛嗣
高宮八幡宮	宮司	青柳	眞知子
若八幡神社	宮司	西田	智子
大根地神社	宮司	吉田	高庸
嚴島神社	宮司	白土	正孝
朝倉支部			
美奈宜神社	宮司	内藤	尚武
王子神社	宮司	久保山	瑞恵
須賀神社	宮司	三浦	裕正
大己貴神社	宮司	高	清史
恵蘇八幡宮	宮司	上原	実二
日吉神社	宮司	梶原	明彦
筑紫支部			
伏見神社	宮司	酒井	啓太
春日神社	禰宜	星野	清徳
二市八幡宮	宮司	梅野	洋充
電門神社	宮司	西高辻	信良
太宰府天満宮	権宮司	西高辻	信宏
太宰府天満宮	権宮司	小鳥居	寛貞
太宰府天満宮	権宮司	御田	良知
太宰府天満宮	禰宜	西原	強
太宰府天満宮	禰宜	新西	靖斉
太宰府天満宮	禰宜	松尾	太輔
太宰府天満宮	禰宜	野村	木乃実
太宰府天満宮	権禰宜	柴田	浩二
太宰府天満宮	権禰宜	松大路	信潔
太宰府天満宮	権禰宜	森	大郎
太宰府天満宮	権禰宜	馬場	宣行
太宰府天満宮	権禰宜	真木	智也

大宰府天満宮	権禰宜	松大路 和弘
大宰府天満宮	権禰宜	出光 公朝
大宰府天満宮	権禰宜	石川 史嗣
大宰府天満宮	権禰宜	高山 博子
糸島支部		
産宮神社	宮司	岡本 靖文
住吉神社	宮司	徳安 正大
櫻井神社	宮司	外山 穰也
櫻井神社	禰宜	外山 貴寛
志々岐神社	宮司	御床 治之
生松天神社	宮司	宮崎 千秋
大祖神社	宮司	小金丸 正比古
鎮懐石八幡宮	宮司	空閑 俊理
深江神社	宮司	空閑 隆和
浮嶽神社	宮司	菅 秀純
遠賀中間支部		
八劍神社	宮司	岡 直衛
岡湊神社	宮司	林田 浩倫
狩尾神社	宮司	波多野 総嗣
高倉神社	宮司	久間 武春
浅木神社	宮司	門司 成孝
八幡支部		
高見神社	宮司	波多野 光隆
仲宿八幡宮	宮司	波多野 道彦
一宮神社	宮司	波多野 正信
岡田神社	宮司	波多野 直之
八劍神社	宮司	伊高 正修
杉守神社	宮司	千々和 直章
戸畑支部		
中原八幡宮	宮司	青木 一
若松支部		
若松恵比須神社	宮司	谷 洋平
白山神社	宮司代務者	出光 新治
白山神社	宮司	三木 貴文
日吉神社	宮司	伊高 繁男

戸明神社	宮司	相良 元次
門司支部		
戸上神社	宮司	是則 宗孝
恒見八幡神社	宮司	石川 正雅
貴船神社	宮司	城戸 貴英
小倉支部		
篠崎八幡神社	宮司	川江 正文
東大野八幡神社	宮司	重村 正親
蒲生八幡神社	宮司	高山 定次
御祖神社	宮司	鑿梨 文孝
到津八幡神社	宮司	石崎 信考
宗像神社	宮司	重村 正人
綿都美神社	宮司	平野 氏貞
菅原神社	宮司	大神 徳彰
沼八幡神社	宮司	川江 真由美
八旗八幡神社	宮司	宮田 聖子
天疫神社	宮司	小屋 史
京都支部		
生立八幡宮	宮司	熊谷 晃哲
二兒神社	宮司	内山 知史
築上支部		
大富神社	宮司	清原 直嗣
嘯吹八幡神社	宮司	初山 吉章
岩戸見神社	宮司	熊谷 博明
金富神社	宮司	上田 豊秋
葛城神社	宮司	上田 久嗣
田川支部		
福智下宮神社	宮司	早川 保彦
稲荷神社	宮司	阿部 重信
岩屋神社	宮司	手島 直和
鶴岡八幡神社	宮司	鶴我 盛恒
若八幡神社	宮司	原田 みやび
久留米支部		
榎原天満宮	宮司	熊懐 隆三
日吉神社	宮司	久富 清司

篠山神社	宮司	山田 茂人
日吉神社	宮司	吉貝 卓
水天宮	宮司	眞木 啓樹
八幡神社	宮司	井上 博幹
箱崎八幡神社	宮司	酒見 紀成
高良大社	宮司	竹間 宗麿
日吉神社	宮司	田中 芳文
小郡三井支部		
御勢大霊石神社	宮司	内村 直尚
若宮八幡神社	宮司	長田 雅彦
浮羽支部		
八幡神社	宮司	安元 良孝
朝田天満宮	宮司	矢野 憲一
天満宮	宮司	安元 徹
八女支部		
福部神社	宮司	武墓 信行
水田天満宮	宮司	宮原 恭盛
地主神社	宮司	齋藤 雅昭
熊野神社	宮司	五條 元滋
大川三浦支部		
高良玉垂命神社	宮司	宮崎 剛敏
青木天満宮	宮司	久富 真人
風浪宮	宮司	阿曇 史久
柳川山門支部		
下庄八幡神社	宮司	外河 清英
大牟田三池支部		
諏訪神社	宮司	諏訪 哲也
草木八幡神社	宮司	矢野 智子
八幡神社	宮司	矢野 高貴
天満神社	宮司	久保田 邦鑑
宝満神社	宮司	西山 眞隆
江浦八幡神社	宮司	永井 正文
阿蘇神社	宮司	江良 博信

ご協力いただきありがとうございました。

装束クリーニング専門店

装束クリーニング
清流洗

全国有名神社さまより
受注実績多数!!



〒811-1362
福岡県福岡市南区長住2丁目19-3
TEL.092-562-7770



詳しくはwebで



株式会社 民俗工芸 〒857-1162 長崎県佐世保市卸本町18-1
TEL0956-34-5500 FAX0956-34-5511

祈る心によりそう御守づくり
京の伝統に真心を込めて



京都奉製株式会社

京都本社 / 東京営業所 / 仙台営業所 / 福岡営業所 / 東海営業所

☎ 0120-164124 (イロヨイニシキ)

神社授与品奉製

御神矢・絵馬・招福熊手・木札・メタル守
御神符・ステッカー・御守袋・弓矢・御守各種 奉製



株式会社

福岡奉製

信頼、真心

事務所 〒834-0081 福岡県八女市立花町山崎1961
TEL(0943) 23-3412 FAX(0943) 24-4483
E-mail fukuoka@mx3.et.tiki.ne.jp

八女千歳あめ本舗 工場 福岡県八女市立花町兼松208-3
〒834-0082 TEL(0943) 37-1117
FAX(0943) 37-1118

神祭具 授与品 記念品 奉製



株式会社 神路社

本社

〒516-0037 三重県伊勢市岩瀬2丁目5番29号(私書箱第26号)
電話番号 0596-24-5858 / FAX 0596-24-5110
E-mail info@kamijisya.co.jp

神苑(東日本営業所)

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南2丁目23番7号
エビスパークビルズ201号室
電話番号 03-3280-6720 / FAX 03-3280-6721
E-mail info-tokyo@kamijisya.co.jp
https://kamijisya.co.jp



Akachan
no
Shiro

私達はレイエットメーカー、
赤ちゃんといっしょの夢を見ます。

株式会社 赤ちゃんの城

〒830-8630 福岡県久留米市津福今町373-1
TEL: 0942-37-8111 FAX: 0942-35-6231
URL <http://www.baby.co.jp/>



授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所

代表取締役 長谷川義貢

HASEGAWA

creation with warmth



〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町466-1
TEL: 048-921-1221 / FAX: 048-921-1515

縁起物のことなら大雅にお任せ!!



株式会社 大雅

代表取締役 手塚静香

【取扱商品】熊手・福辨・福ざる・水引細工
福岡県筑紫野市石崎2-10-20
TEL 092-923-3397 FAX 092-921-0308
<http://www.taiga-jp.com> info@taiga-jp.com



千歳船製造元
床島屋製菓株式会社
本社工場
福岡県朝倉市堤古賀茶屋
電話 0946-22-3945(代)
FAX 0946-22-7748



コバオリ株式会社 福岡支店 TEL 092-557-3677
福岡市南区塩原3丁目8番28号 ケイエスビル 3F 3-C号室



創業安政式年
授与品・神具
御守袋・錦守・絵馬・根付・土鈴・おみくじ
朱印帳・木札・紙札・神具・御装束・記念品

〒602-0056 京都市上京区堀川通上立売下ル北舟橋町835
創業安政式年 株式会社秋江 TEL 075(432)2255/FAX 075(441)8011
URL http://www.akie-net.com

誠実と真心で奉仕する

御守・授与品・参拝記念品奉製・天然石厄除開運腕輪守・天然石みくじ



〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL (06) 6702-6009 (代) FAX 0120-34-2996 sansho@green3.co.jp
御一報次第カタログ御送り致します。

住吉
油
取



KOWA DISPLAY CO.,INC

大切なイメージを
カタチにします。

株式会社 晃和ディスプレイ

東京都目黒区目黒本町3-13-10 〒152-0002
Tel:03-3792-0211 Fax:03-3792-0925
ホームページ http://www.kowa-dsp.co.jp/

神 社・仏 閣・文化財



(株)小山社寺工業所

〒812-0054 福岡市東区馬出5-36-43
TEL. 092-651-4847 FAX. 092-641-2278

宮内庁御用達

京都

木村新造装束店

〒602-8033 京都市上京区小川通丸太町上る
TEL 075-231-2085 FAX 075-231-2144

井 官内庁・神官司庁・神社本庁 御用達 筒



井筒装束店

IZUJISU

SINCE 1705

●本社
601-8347
京都市南区西九条区
福音島海部1番地1
TEL 0120-075-980
FAX 0120-075-970
Mail izusya4@iz2.co.jp
Web shouzenkuten@izusya.co.jp

●東京店
160-0008
東京都新宿区四谷
三袋町十四番地11
TEL 0120-863-522

京 装束・調度・羽神具・器楽器・舞衣装・授与品・雅児衣裳 都

創業 明治以前

各種御神符・守札 その他授与品全般

湊御神符奉製所 **株式会社 湊**

伊勢市神宮会館前 (〒516-0025) <http://www.ise-minato.co.jp>
 TEL(0596)22-2442(代表) FAX(0596)28-8445 info@ise-minato.co.jp

神社授与品御用達

株式会社 三宝社

〒115-0052 東京都北区赤羽北三丁目3番14号
 電話 03-3906-0988(代) FAX 03-3905-2422

張り子・縁起物 **株式会社 一千乃**

TEL 027-323-5222(代) FAX 027-323-1286
 〒370-0873 群馬県高崎市下豊岡町3
 ◎ <https://www.ichino.co.jp/>

高時だるま・千支張り子・五月人形・OEM制作・各種縁起物販売 / 卸売

御社頭授与品 御参拝記念品

〈営業品目〉 ●交通安全御守護 ●開運招福鈴 ●文鎮 金盃
 ●各種記念品類 ●胸像・レリーフ・鋳造類

鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-1 2-1
 TEL. 03-3814-1811 E-mail : info@suzuki-kisho.co.jp
 FAX. 03-3818-8332 <http://www.suzuki-kisho.co.jp>

卒会される先輩方

これからも御指導御鞭撻のほどよろしく願っています。



久留米支部
日吉神社 田中俊行

第三部会



門司支部
和布刈神社 高瀬和信

第二部会

宗像支部
大森神社 伊東祐子

第一部会

糸島支部
熊野神社 片岡正雄

編集後記

まずもって、今号発刊にあたり、賛助会費を賜りました諸先輩方、ならびに御協賛を賜りました企業様に、衷心より厚く御礼申し上げます。皆様からの多大なる御厚情と温かい御支援により、本誌を無事に発刊する運びとなりましたこと、心より感謝申し上げます。

また、今回より振込手数料につきましては御対応をお願いすることとなり、皆様には御負担をおかけすることとなり誠に恐縮でございますが、事情を御賢察のうえ、御理解と御協力を賜りましたことに、重ねて御礼申し上げます。

当会の運営を今後も継続的かつ安定的に行っていくためには、皆様の変わらぬお力添えが不可欠でございます。引き続き御支援を賜りますとともに、皆様の御期待に沿えるよう、より一層内容の充実を努めて参る所存でございます。

さて、昨年八月に発刊致しました、ぬぼこ百二十五号以降は、神道青年会会員にはデータ配信のみとさせていただきます。慣れ親しんだ紙媒体の方が良いという御意見もごく二部ございましたが、データ配信のほうが気軽に閲覧できるとのお声も多く、概ね御好評をいただいております。本件は経費の削減や事務作業の効率化を主眼として検討を重ねた結果でありましたが、思わぬ副産物もございました。送料節約のため、発刊後の役員・支部委員会、各部会の会議のたびに、鞆や段ボールに冊子を詰めて配布しておりました頃と比べますと、会員の肉体的な負担も、いささか軽減されたように感じられます。

今後は、これら経験を生かしながら、より持続可能な形で本誌の発行を続けて参りたいと考えております。末筆ながら、皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げますとともに、今後とも変わらぬ御理解と御支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

広報委員長 平山道宣

福岡県神道青年会ホームページでも公開しております。
 QRコードを読み込みご覧ください。

